

まちづくり交付金 事後評価シート
大分駅周辺地区

平成20年12月

大分県大分市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大分県		市町村名	大分市		地区名	大分駅周辺地区		面積	325ha				
交付期間	平成17年度～平成20年度		事後評価実施時期	平成20年度		交付対象事業費	1,313百万円	国費率	0.4					
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名											
	基幹事業		道路(金池南3号線、金池南・大道1号線、金池西11号線、金池南・大道2号線、金池南5号線、東大道8号線)、高質空間形成施設(ポケットパーク整備、都市博物館案内サイン)、土地区画整理事業(大分駅南地区)											
	提案事業		まちづくり活動推進事業(都心まちづくり活動推進事業)											
	当初計画から削除した事業		事業名				削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	基幹事業		道路(末広東大道線、上野1号線、上野2号線、顕徳7号線、金池・顕徳1号線)、地域生活基盤施設(自転車駐車場、情報板)、高質空間形成施設(南口駅前広場景観形成施設整備、ストリートファニチャー整備)				道路:地権者との調整により事業を延期したため削除 地域生活基盤施設:計画の見直しにより事業を延期したため削除 高質空間形成施設:他事業の進捗状況、計画の見直しにより事業を延期したため削除		影響なし					
	提案事業		地域創造支援事業(都市博物館ルートマップ)				地形図の精度を確保するため、主要幹線道路の整備後に事業を延期したため削除		影響なし					
新たに追加した事業		基幹事業		街路(東大道南春日町線、六坊新中島線)				中心市街地の交通ネットワーク強化のため追加		影響なし				
提案事業		地域創造支援事業(公共下水道事業、万寿寺跡活用整備造成事業)、事業活用調査(事業効果分析に関する調査)、まちづくり活動推進事業(中心市街地での公共交通利用促進に関するアンケート調査、複合文化交流施設機能導入調査)				計画の目標を踏まえ、有効性の高い事業や今後のまちづくり推進に向けた事業を追加		影響なし						
交付期間の変更		当初	平成17年度～平成19年度		変更		平成17年度～平成20年度		指標4「まちづくりイベント等の開催数」の目標値は年4回実施することを想定していたため、12回から16回に変更					
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	駅の乗降客数	人/日	33,846	H14	34,977	H20	モニタリング	評価値	33,680	△	あり なし	大分駅付近連続立体交差事業やその隣接地区における大分駅南土地区画整理事業の遅れにより、利便性やイメージの向上が当初の想定よりも下回った。そのため目標は未達成となっているが、近年の減少傾向よりは改善されている。また、定期利用者は増加傾向にあることなどから、事業による一定の効果は発現していると考えられる。	H21年8月頃
	指標2	居住者数	人	19,800	H16	20,700	H20	モニタリング	評価値	21,249	○	あり なし	土地区画整理事業等の基盤整備推進による土地利用促進が図られ、居住者数が増加している。これにより、評価値は目標を達成すると考えられる。	H21年4月頃
	指標3	地区来街者数	人/年	3,127,147	H15	3,300,000	H20	モニタリング	評価値	3,110,778	×	あり なし	来街者数はH16年に一時減少した後、年々増加しているものの、大分駅北側地区での活性化等に向けた取り組みが不十分であったこともあり、目標は未達成となった。	H21年6月頃
	指標4	まちづくりイベント等の開催数	回	0	H16	16	H20	モニタリング	評価値	19	○	あり なし	事業の実施にともなう地域の歴史・文化資源に対する関心の高まりや、まちづくりに対する機運の高まりにより、数多くのまちづくりイベントが開催されている。これにより、目標を達成した。	H21年4月頃
	指標5	生活利便施設の床面積	m ²	0	H17	2,000	H20	モニタリング	評価値	3,294	○	あり なし	土地区画整理事業等の基盤整備推進による土地利用促進が図られ、居住者数が増加したこともあって、生活利便施設の立地が進んでいる。これにより、目標を達成した。	H21年4月頃
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1		区画整理地区内の新築戸数	戸/年	80	H13年度～H16年度平均	/		126	/		土地区画整理事業等の基盤整備推進により、生活環境の向上や地域のイメージアップが図られ、新築戸数が増加している。また、土地区画整理地区以外からの転入者による新築戸数も増加している。	H21年6月頃	
	その他の数値指標2		駅周辺部の歩行者数	人	49,474	H16	/		68,844	/		駅周辺の歩行者数が交付以前は減少傾向であったのに対し、交付期間前後比のH18/H16値は約1.2と増加していることから、事業による賑わい創出の効果は発現していると考えられる。	H21年4月頃	
4) 定性的な効果発現状況	○各種調査の実施により、今後のまちづくりの方向性が明確になった。 ○多数のまちづくりイベントの開催や、住民などによる公共施設(ポケットパーク)管理の仕組みづくりが行われたことで、地域が主体となったまちづくりに向けた機運が醸成された。													
5) 実施過程の評価	モニタリング		実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	住民参加プロセス		おおいた都心まちづくり会議の開催や景観・施設整備等に係るワークショップの実施等				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ●			
	持続的なまちづくり体制の構築		各種協議会や懇話会などのまちづくり活動組織の構築や、中心市街地活性化を目的とした株式会社の設立				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ●			
										これまでの成果を活かし、今後は新たなテーマを設定して、ワークショップ等による住民参加を継続する。				
										今後も同様の方法での維持・継続に注力する。				

様式2-2 地区の概要

大分駅周辺地区(大分県大分市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値		目標値		評価値		
大目標: 中心市街地における都市機能の充実及び魅力づくり	駅の乗降客数	単位: 人/日	33,846	H14	34,977	H20	33,680	H20
目標1: 大分駅関連交通結節機能の充実及び都市機能の円滑化	居住者数	単位: 人	19,800	H16	20,700	H20	21,249	H20
目標2: シンボルロード及び複合文化交流施設の整備	地区来街者数	単位: 人/年	3,127,147	H15	3,300,000	H20	3,110,778	H20
目標3: 低未利用地等を活用した魅力づくり	まちづくりイベント等の開催数	単位: 回	0	H16	16	H20	19	H20
目標4: 中心市街地の活性化に向けた魅力づくり	生活利便施設の床面積	単位: ㎡	0	H17	2,000	H20	3,294	H20
目標5: 歴史及び文化を活かしたまちづくり								

大分駅周辺地区で実施した事業

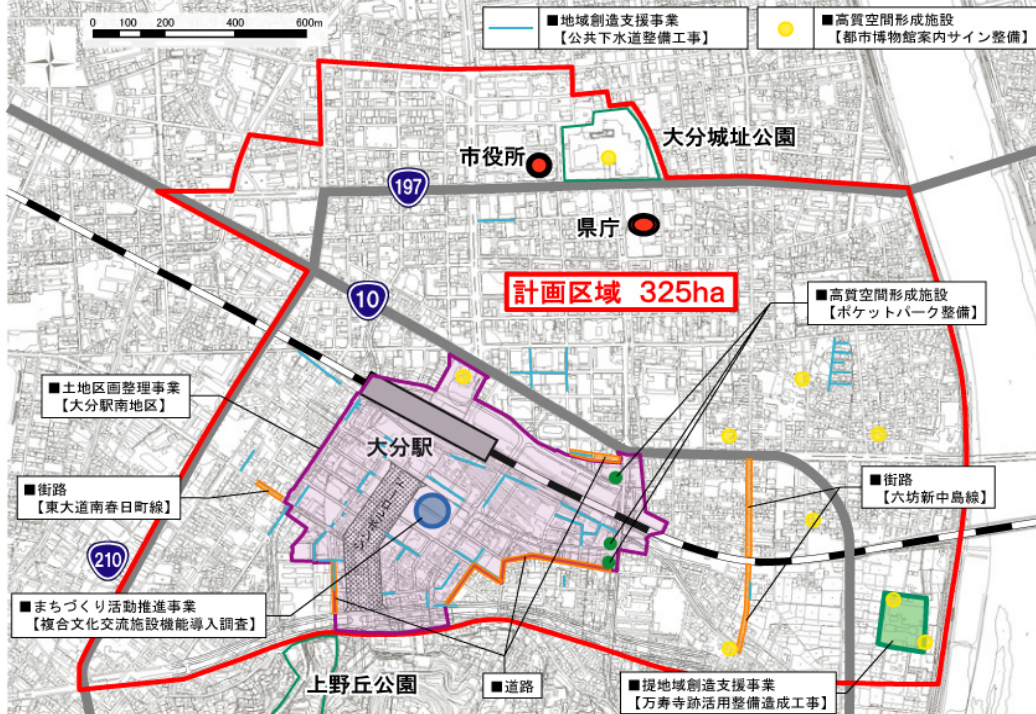
■土地区画整理事業および道路整備



■都市博物館案内サイン整備



■万寿寺跡活用整備造成工事



■ポケットパーク整備



■六坊新中島線



[区域全体を対象とした事業]

- まちづくり活動推進事業【都心まちづくり活動推進事業】
- まちづくり活動推進事業【中心市街地での公共交通利用促進に関するアンケート調査】
- 事業活用調査【事業効果分析に関する調査】

まちの課題の変化

- 道路の整備・拡幅や、歩道設置が実施されたことで、交通利便性が向上するとともに、快適な歩行空間が確保された。
- 大分駅南土地区画整理事業や下水道・広場等の整備により都市基盤整備がある程度整い、生活利便施設の立地や都心居住の推進が図られた。
- シンボルロードや複合文化交流施設、都市景観の形成に向けた検討を行ったことで、都心の魅力づくりに向けた素地づくりができた。
- 地域の歴史・文化資源についての案内サインの設置等の整備により、まちの知名度、イメージの向上が図られ、来訪者受け入れのための素地づくりができた。
- まちづくりイベントの開催や住民による公共空間の管理の仕組みづくりなどにより、まちづくりに対する気運が高まるとともに、地域振興に向けた市民レベルでの取り組みの基礎ができた。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 1) 中心市街地の南北一体化による都市機能の充実と賑わいの創出**
○大分駅の南北を分断している鉄道が平成25年度末には全て高架化される予定となっていることから、これにあわせて街路整備等による駅南北の一体化を推進し、駅周辺地区の都市機能のさらなる充実を図るとともに、複合文化交流施設整備をはじめとする賑わい創出に向けた施策を展開していく必要がある。
○また、駅周辺の整備にあわせて、自動車や公共交通のみならず、歩行者・自転車なども含めた多様な交通手段間の結節点としての機能強化を進めていく必要がある。
- 2) 人にやさしい魅力ある都市空間の整備**
○調査の実施により方向性が明確となった複合文化交流施設の整備を推進するとともに、歴史的・文化的な地域資源のさらなる有効活用に向けた情報提供を実施することなどにより、地域の魅力を高め、来訪者の増加を図ることが必要である。
○さらに、来訪者に対する案内誘導の実施や自転車・徒歩で移動しやすい環境の整備などにより、面的な回遊を促す都市空間の形成を図っていく必要がある。
- 3) 安全で快適な居住環境の整備**
○土地区画整理事業や下水道整備事業などにより居住環境の整備が進み、居住者数は増加しているものの、経年的な変化を見ると伸び悩みが見られることから、さらなる居住促進に向けた環境整備が課題である。
○このため、引き続き下水道や公園・緑地などといった生活の質の向上に資する都市基盤の整備を進めるとともに、安全・安心など、多様な市民のニーズに対応した居住環境の創出を図っていく必要がある。

※大分駅周辺地区は二期計画を策定することにしており、二期計画において、上記のまちづくり方策に取り組んでいくこととする。